

座候

一九三五年二月二十五日

「ローザンヌ」ニ於テ

ピエール・ド・クーベルタン

410

昭和10年10月1日 広田外務大臣より
在伊国杉村大使宛(電報)

一九四〇年オリンピック大会東京開催につき副島
伯爵よりムツソリーニ首相に書翰送付に対しオリ
ンピック関係の約束は守る旨の返答伝達について

本省 10月1日後7時発

第五七號

一九四〇年「オリムピック」東京開催方ニ關スル副島伯ヨ
リ「ム」首相宛書翰ニ就テハ貴大使ノ御承知ノ通りナル處
今般「ム」ヨリ在京伊大使ヲ通シ副島伯ニ對シ「オリムピッ
ク」ニ關スル約束ハ固ク守ルヘキ旨回答越セル趣ナリ御參
考迄

來ノ意嚮ハ其ノ當初ヨリ之ヲ以テ一ノ世界的施設トナシ、
徐々ニ全世界ノ青年ノ諸活動ヲ抱含セントスルニ有之候斯
クシテ第三「オリムピック」大會ハ亞米利加ニ於テ開催致
サレ候刷新セラレタル「オリムピズム」カ今日亞細亞大陸
ニ迄テ伸展シ然モ夫レカ今貴國ニ於テ亞細亞大陸ニ於ケル
第一歩ヲ踏出サント致シ居リ候時恰モ此ノ一九四〇年ニ於
テ日本ハ唯ニ其ノ子臣ノ爲ニ光榮アルノミナラス實ニ全人
類ノ爲ニ意義深甚ナル大祭日ヲ祝讃セントスルニ於テヲヤ
現代「オリムピック」競技ノ創設者トシテ拙者カ此ノ顯著
ナル遇合ヲ喜フトスレハ、史家トシテノ拙者ハ此ノ機會ヲ
把エテ日本歴史カ今後世界民族史上ニ不變ノ地位ヲ占ムル
モノナルコトヲ今更ノ如ク主張セントスルモノニ御座候
斯ノ如クシテ總テノ國民ハ此ノ「オリムピック」競技ノ中
ニ勇氣、愛國心、忍耐及意力ノ偉大ナル教訓ヲ見出スナラ
ント思惟致候此等諸德ハ人生ノ逆境或ハ自然ノ反抗ニ直面
スルニ際シ物質ニ對スル精神ノ勝利ヲ確保スルモノニ候
市長閣下、拙者ハ右ノ所感ト共ニ光輝アル貴國ト其ノ華大
ナル首都ニ對シ稱讃、希望且ツ恭敬ノ意ヲ表スルモノニ御

日本外交文書

昭和期Ⅱ第二部第四卷
(昭和十年対欧米・國際關係)

日付索引

昭和期Ⅱ第二部第四卷
(昭和十年対欧米・国際関係)
日付索引

事項 番号	文書 番号	日 付	電信 書信 番号	発・受 信者	件 名	頁
四	243	昭和10年1月1日	一	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	極東経済視察団派遣の主眼を中国とする方針 につき日米通商協議会議長の説明振り	389
		昭和10年1月2日	二	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	極東経済視察団勧誘状ドラフトの送付	390
四	244	昭和10年1月2日	別電 右ドラフト	一月二日発在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛第三号	視察団の派遣先を中国とせざるを得ない事情 について	391
四	245	昭和10年1月2日	四	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	極東経済視察団勧誘状ドラフトの標題より 「中国」の字句削除等修正方要求について	394
四	246	昭和10年1月2日	五	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	安達常設国際司法裁判所判事の葬儀の状況に ついて	394
二	6	昭和10年1月3日	一	在オランダ武富公使より 広田外務大臣宛(電報)	英国皇帝即位二十五周年祝典は質素を旨とし 外国より特派使節を招待しない意向との英国 式部長官の内報について	37
四	164	昭和10年1月3日	一	在英国松平大使より 広田外務大臣宛(電報)		263

四	247	昭和10年1月7日	一	広田外務大臣より 在ニューヨーク沢田総領事宛(電報)	視察団が中国のみを目的とするものとの印象を与える勸誘状字句の修正につき日米通商協議会議長に申し入れ方訓令	…	263
四	248	昭和10年1月7日	八	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	勸誘状に日本および満州国訪問に関する趣旨を挿入することについての日本側申し入れに對する日米通商協議会議長の反応	…	396
四	249	昭和10年1月8日	二	広田外務大臣より 在ニューヨーク沢田総領事宛(電報)	視察団が中国を目標とし日本側が附随的との印象を与える勸誘状中の字句修正および満州国訪問趣旨の挿入に関する方針につき訓令	…	397
二	7	昭和10年1月9日	四	広田外務大臣より 在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)	麻薬製造制限条約我が方留保に対する未回答国に對し異議なきものと認める旨の回章を事務総長より發送申入れ方訓令	…	37
四	250	昭和10年1月9日	三	広田外務大臣より 在ニューヨーク沢田総領事宛(電報)	視察団の構成および目的に關して日本に配慮すべきこと進言方在本邦米国外使館参事官および商務官承諾について	…	397
二	8	昭和10年1月11日	一〇	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	連盟事務局よりの麻薬製造制限条約我が方留保に對する未回答国宛回章について	…	38
四	251	昭和10年1月12日	一三	別電 一月十一日発在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報) 右回章	日本側の立場を考慮し二つの視察団をそれぞれ日本と中国に派遣する方向で計画を變更した旨日米通商協議会議長からの説明	…	398

四	252	昭和10年1月12日	一四	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	極東經濟視察団勸誘状新ドラフトの送付	…	399
四	253	昭和10年1月12日	一六	別電 一月十二日発在ニューヨーク沢田総領事より 右ドラフト	新ドラフトの方針では日本の立場困難となる見込みにつき原案復帰を含む今後の対処方針方訓令	…	399
二	9	昭和10年1月14日	一四	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	宮島阿片中央委員会委員の後任推薦につき事務局係官に申入れについて	…	39
四	254	昭和10年1月14日	五	付記 昭和九年十二月十九日発在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報) 連盟アヘン中央委員会書記長による宮島同委員の留任要請について	視察団は単一とすることが望ましく勸誘状の文案において中国により重きを置くことはやむを得ないとの日本政府意向申入れ方回訓令	…	40
四	255	昭和10年1月14日	一七	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	日本側が要求する勸誘状の原案復帰についての日米通商協議会議長の見解および本件への國務省極東部長の関与について	…	404
二	10	昭和10年1月15日	六	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)	安達判事の後任を日本人としたく各国の動向など査報方訓令	…	41
四	210	昭和10年1月15日	一一	在ブラジル内山臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	ブラジルの現状において我が方より多数の移民を送出するには移民導入を同国の利益に合致させる等機微な工作需要との意見具申	…	339

四	256	昭和10年1月15日	一八	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	日中両国への配慮は國務省極東部長の指示に基づくとする日米通商協議会議長内話について	405
四	257	昭和10年1月15日	一九	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	勧誘状新ドラフトの修正による原案復帰について日本側同意と団員の入選に関する要望日米通商協議会議長へ中入れについて	405
四	258	昭和10年1月17日	七	別電 一月十五日発在ニューヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛第二〇号 右修正について	視察団の人選や滞在日程および満州国訪問等に関して日本側要望を前提に日米通商協議会議長と十分協議すべき旨訓令	406
三	97	昭和10年1月18日	機密二四	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛	伊仏ローマ協定成立後における伊国のエチオピアに対する態度の変化につき在伊国各国外公使より聞込みについて	170
四	259	昭和10年1月19日	機密二四	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛	極東経済視察団勧誘状最終案の送付	407
三	53	昭和10年1月21日	機密二六	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛	仏伊ローマ協定成立後における中欧諸国の動向について在伊国各国外公使より聞込みについて	91
五	272	昭和10年1月21日	通一普通合 二八八	重光外務次官より 津島大蔵次官一宛 吉野商工次官一宛	オランダの対外通商政策に関する武富公使の報告送付について	429
五	273	昭和10年1月22日	会商二	在シドニー村井総領事より 広田外務大臣宛(電報)	今次オーストラリアとの通商交渉において重要案件となる輸入禁止制限問題への対応策について	431
			別電 一月二十二日着在シドニー村井総領事より広田外務大臣宛会商第三号 右対応策			432
一	1	昭和10年1月23日	特情倫敦三	在英國松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣の第六十七回議會演説に関する英國各紙の報道振りについて	1
一	2	昭和10年1月23日	特情紐育七	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	広田外相の議會演説は諸外国に対し和協的であるが陸海軍の協力を得られるかが問題であると指摘した米國紙の報道振りについて	31
一	3	昭和10年1月23日	三〇	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外相の議會演説中海軍軍縮問題、对中国問題等に関する米國紙の報道振りについて	32
三	77	昭和10年1月23日	二九	在仏國佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	小協商諸國代表との晩餐の席において独國およびポーランド不参加でも東欧カナル案は放棄しない旨仏國外相言明との諜報者よりの情報について	141
四	211	昭和10年1月24日	一九	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛(電報)	日本人移民問題については内部工作によりブラジル国内の対日感情を善導し適当な時期の到来を待つべきとの同國外相内話について	340
六	403	昭和10年1月24日	一〇	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	オリンピック東京誘致には伊國側を説得し同國の開催希望を断念させる必要があるが副島伯爵病氣により交渉中断について	717
			付記 昭和九年十二月七日発広田外務大臣より在伊國杉村大使宛電報第八三号 伊國がオリンピックローマ開催の I O C オスロ委員会へ杉村大使の出張方希望に対し意向照会			717
一	4	昭和10年1月25日	二七	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外相の議會演説における対ソ關係部分の問題点に関しソ連紙の報道振りについて	34

五	三	五	五	四	二	四	二	二	四	四	四	四	五	五	四	四	二	一	
278	54	277	276	185	14	184	13	12		183	261	182	260	275	274	181	180	11	5
昭和10年2月5日	昭和10年2月5日	昭和10年2月4日	昭和10年2月4日	昭和10年2月4日	昭和10年2月2日	昭和10年2月1日	昭和10年1月31日	昭和10年1月30日		昭和10年1月29日	昭和10年1月28日	昭和10年1月27日	昭和10年1月26日	昭和10年1月25日	昭和10年1月25日	昭和10年1月25日	昭和10年1月25日	昭和10年1月25日	昭和10年1月25日
会商一〇	機密五二	会商一一	会商七	四七	二七	四二	四七	四三		四〇	四一	三五	三〇	一八	会商二	一〇	一二	三三	二八
在シドニー村井総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛	在シドニー村井総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在シドニー村井総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)		在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在米國齋藤大使宛(電報)	広田外務大臣より 在シドニー村井総領事宛(電報)	在アフガニスタン北田公使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在ソ連邦酒匂臨時代理大使宛(電報)	在仏國佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)
別電 二月四日発在シドニー村井総領事より 右交渉方針																			
再軍備問題および対連盟問題等独国外交上の諸問題につき在伊国独国外交大使より聞込みについて	再軍備問題および対連盟問題等独国外交上の諸問題につき在伊国独国外交大使より聞込みについて	オーストラリア側との第一回および第二回通商会談に対する見解と今後の交渉方針について	オーストラリアとの通商会談開始について	日本側が試掘権延長問題に関する詮議を急ぐ事情につき外務人民委員代理より照会について	連盟脱退後の南洋群島委任統治に關し連盟事務総長が脱退は受任国の地位に影響しない旨のフォーミューラ決定方指令について	極東における軍備充実振りを明らかにした第七回ソヴイエト大会における国防人民委員代理の演説について	米國の常設國際司法裁判所加入案を上院が否決について	米國の常設國際司法裁判所加入案を上院が否決について		對ソ戦争を公言する分子が日本に存在することを批判した第七回ソヴイエト大会におけるモロトフの演説について	對ソ戦争を公言する分子が日本に存在することを批判した第七回ソヴイエト大会におけるモロトフの演説について	視察團団長に内定のフォーブスより視察團の目的および國務省の本件に対する態度等につき聴取について	外務人民委員代理に對し我が方朝野が試掘権延長問題を重要視している旨を説明の上外務當局の好意的斡旋を要望について	内諾について	對中南米貿易の調整にあつては対米貿易との間に三角的に調整する方向で模索中について	今次オーストラリアとの通商交渉において重要案件となる輸入禁止制限問題への対応策修正について	北樺太石油会社による試掘権延長問題に關しソ連側當局と適宜交渉方針訓令	連盟脱退確定が間近に迫る状況において一般軍縮會議からの我が方脱退の是非につき請訓	廣田外相の議會演説中の満ソ國境付近においてソ連が軍備増強中との指摘を不当とするソ連紙の報道振りにについて
440	95	439	435	435	285	44	284	43	42	283	411	282	411	432	432	281	281	41	35

六	五	二	五	四		四	四	四		四	五	六	五	三	二	二	五	四
405	283	17	282	263		166	165	148		147	281	404	280	55	16	15	279	262
昭和10年2月13日	昭和10年2月13日	昭和10年2月13日	昭和10年2月12日	昭和10年2月12日		昭和10年2月12日	昭和10年2月12日	昭和10年2月12日		昭和10年2月12日	昭和10年2月9日	昭和10年2月8日	昭和10年2月8日	昭和10年2月8日	昭和10年2月8日	昭和10年2月7日	昭和10年2月6日	昭和10年2月6日
一二	通一機密 一〇	二九	商普通 三三一	機密五六		三六	特情上海 二三	三四		七七	三二	二一	会商四	機密五五	三一	二二	会商二一	三八
在伊国杉村大使宛(電報)	在シドニー村井総領事宛	在英国外務大臣より 在英国外務大臣より 在英国外務大臣より	在トルコ本大使館商務書記官より 在英国外務大臣宛	在ニューヨーク沢田総領事より 在英国外務大臣宛		在英国外務大臣より 在英国外務大臣宛(電報)	在中国有吉公使より 在英国外務大臣宛(電報)	在米国外務大臣より 在米国外務大臣宛(電報)		在米国外務大臣より 在米国外務大臣宛(電報)	在米国外務大臣より 在米国外務大臣宛(電報)	在伊国杉村大使より 在英国外務大臣宛(電報)	在シドニー村井総領事宛(電報)	在伊国杉村大使より 在英国外務大臣宛	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 在英国外務大臣宛(電報)	在英国外務大臣より 在英国外務大臣宛(電報)	在シドニー村井総領事より 在英国外務大臣宛(電報)	在ニューヨーク沢田総領事より 在英国外務大臣宛(電報)
東京市よりムツソリーニ首相へ謝意伝達およびオスロ会議に向け更なる協力要請について……718	オーストラリアとの通商条約案の訂正について……447	麻薬製造制限条約我が方留保に対する解釈が反対を意味するものでない旨確認方訓令……46	我が方連盟脱退確定後シリア向け邦品輸出にあつては最高税率適用との風説につき有力な邦品取扱商人より照会について……443	我が方連盟脱退確定後シリア向け邦品輸出にあつては最高税率適用との風説につき有力な邦品取扱商人より照会について……414	視察団派遣に関連して昨年の広田・ハルメツセージの趣旨に基づき両国の理解促進に努力する旨ハル国務長官より申越しについて……265	南アフリカ法務大臣がケープタウンにおいて行なつた演説中極東問題に関する部分の英本国諸紙における反響について……264	南アフリカ法務大臣による英米提携論をして日本に警戒する英連邦自治領の意見を表すものとのみならず中国紙の報道振りについて……263	アリゾナ州議会に提出された土地法案は日米関係に悪影響を及ぼす危険性が高いので米当局を通じ本案成立阻止を図るべき旨訓令……239		満州問題に関するリットンの講演会と米国側反応について……237	別電 二月十二日発在米国外務大臣宛第七六号 右講演会の概要……238							

五	288	昭和10年2月26日	会商八	広田外務大臣より 在シンドニー村井総領事宛(電報)	オーストラリアとの今後の通商交渉における輸入禁止制限問題および英連邦特惠関税問題の交渉大綱について	461
二	19	昭和10年2月25日	合二二九	在英国外務大臣より 在英國松平大使他宛(電報)	安達判事の後任に長岡博士推薦につき任国裁判官団に申入れ方訓令	47
二	18	昭和10年2月25日	一七	在オランダ武富公使宛(電報)	安達判事の後任に關しハマーシールドの立候補断念申入れ方訓令	47
六	407	昭和10年2月23日		在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	オスロ会議は一九四四年大会の開催地をめぐり紛糾の見込みにつきスウェーデン委員より在同国白鳥公使を応援のため同会議に出張依頼について	720
四	167	昭和10年2月23日	四八	在英國松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	英國において連盟尊重派および親米派により日本の対中国各種策動説が流布されているので適宜打消方意見具申	266
四	213	昭和10年2月20日	一五	在チリ矢野公使より 広田外務大臣宛(電報)	日本の公式使節団がパラグアイ国政府と交渉しチャコ地方の植民を計画中との報道に関する在チリ国ポリビア公使問い合わせについて	341
四	151	昭和10年2月20日	九九	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	アリゾナ排日法成立阻止のため慎重に工作しているとの米國國務長官新聞記者定例会見席上非公開発言について	241
五	287	昭和10年2月19日	九七	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	対米貿易および対中南米貿易を三角的ないしは多角的に調整する案を米國國務長官に説明し協力方要請について	459
三	98	昭和10年2月19日	機密六五	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛	伊國軍二個師団動員後における伊國エチオピア間の動向につき在伊國各國大公使より聞込みにについて	172

五	286	昭和10年2月18日	機密一六	在モンバサ茂垣領事より 広田外務大臣宛	コンゴ盆地条約改廃運動対策としてウガンダ棉買付助成につき意見具申	454
四	150	昭和10年2月18日	一一	在ロサンゼルス堀領事より 広田外務大臣宛(電報)	アリゾナ排日法公聴会では法案反対派の意見は好印象を与えたとの報告について	240
五	285	昭和10年2月16日	四五	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	我が國の対米・対中南米貿易を三角的に調整する案についてはなるべく速やかに米國当局との協議を開始すべき旨訓令	454
四	186	昭和10年2月16日	機密公 五五	在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛	日本側が試掘権延長問題に関する詮議を急ぐ事情を明らかにする資料を外務人民委員代理に手交について	285
四	212	昭和10年2月15日	八七	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	パラグアイ国チャコ地方の日本人植民計画につき日本外務省係官が派遣されたとの米國紙報道振りにについて	341
五	284	昭和10年2月14日	三九	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛(電報)	實業団派遣に対するブラジルの関心は予想以上に付きできる限り同國側物資買付等の商談を期待するとの意見具申	453
四	149	昭和10年2月14日	八三	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	アリゾナ排日法案につき國務長官に対し注意喚起した際同法案成立阻止協力につき同長官の意向表明について	240
六	406	昭和10年2月13日	合一一一	在米國齋藤大使より 在米國齋藤大使宛(電報)	一九四〇年は皇紀二六〇〇年にあたるため東京市は同年のオリンピック大会東京誘致に向け運動中につき適宜援助方訓令	719
五	284	昭和10年2月14日	付記	昭和九年九月十日発広田外務大臣より在ブラジル林大使宛電報第一二七号 本邦実業視察団ブラジル派遣について	東京市は同年のオリンピック大会東京誘致に向け運動中につき適宜援助方訓令	718

五	289	昭和10年2月26日	通二機密合 二九二	別電一 二月二十六日発広田外務大臣より在シドニー村井総領事宛会商第九号 右大綱 二 二月二十六日発広田外務大臣より在シドニー村井総領事宛会商第一〇号 右大綱の説明	461
四	152	昭和10年2月27日	五七	付 記 二月十二日付広田外務大臣より岡田内閣総理大臣宛公信米二普通第六四号 中米諸国との通商関係維持・増進のため在メキシコ公使をして中米五カ国兼 任について 付 記 三月五日付、作成局課不明(大臣答弁資料) 「最近ニ於ケル」アリゾナ」其ノ他諸州議會ニ於ケル排日運動經過」	466

四	153	昭和10年2月28日	一一六	在米国斎藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	241
四	264	昭和10年2月28日	四五	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	242
				別電一 二月二十八日発在ニューヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛第四六号 右団員名簿 二 二月二十八日発在ニューヨーク沢田総領事より広田外務大臣宛第四七号 右旅程	245

三	56	昭和10年3月1日	羅機密三二	在ルーマニア藤田公使より 広田外務大臣宛	415
五	290	昭和10年3月1日	五〇	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	416
				付 記 昭和九年十二月二十一日発広田外務大臣より在ブラジル内山臨時代理大使宛 電報第一八三号 訪伯経済使節団派遣に関する件	417
二	20	昭和10年3月2日	四六	広田外務大臣より 在中国有吉公使宛(電報)	468
六	408	昭和10年3月1日		在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	469
五	291	昭和10年3月2日	六八	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	720
四	154	昭和10年3月5日	六二	在米国斎藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	51
四	214	昭和10年3月5日	二四	在サンパウロ市毛総領事宛(電報)	246
四	215	昭和10年3月6日	四七	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛(電報)	342

三	60	昭和10年3月21日	五六	在独国外務大臣宛(電報)	在独国武者小路大使より	独国再軍備につき我が国にも通報済みであることおよび独国内の諸反響に關し同国外務次官より説明について	107
三	59	昭和10年3月21日	五五	在独国外務大臣宛(電報)	在独国武者小路大使より	独国再軍備宣言につき我が方にも關係ある諸点への対応振りにつき請訓	107
四	216	昭和10年3月20日	九三	在タイ矢田部公使より	在タイ矢田部公使より	仲裁裁判条約に關し法律的事項の義務的裁判および調停委員会への第三人参加などタイ側希望について	343
四	170	昭和10年3月20日	五〇	在奉天峰谷總領事より	在奉天峰谷總領事より	北滿鐵道改築用資材の一部を英国より輸入すべきとの意見に對し大部分を日本品にあてたいとの在奉天鐵路總局の意向について	269
三	58	昭和10年3月20日	五三	在独国外務大臣宛(電報)	在独国武者小路大使より	独国再軍備宣言に對する対応について在独国大使および仏国大使より聴取について	105
三	57	昭和10年3月20日	五二	在独国外務大臣宛(電報)	在独国武者小路大使より	再軍備宣言に對する周辺諸国の反響を独国側は比較的樂觀視し他方英国國璽尚書の東欧諸國訪問の諸國に及ぼす影響には注視について	105
				付記	作成日、作成局課不明	...	53
				同回答訳文	...	...	53
二	23	昭和10年3月17日	八五	在仏国佐藤大使より	在仏国佐藤大使より	麻薬製造制限条約に關する我が方留保に對する仏国政府回答について	52
二	22	昭和10年3月16日	九七	在英國松平大使より	在英國松平大使より	府の解釈は反對留保にあらずとの外務省極東部長の談話について	51
				別電	三月十七日發在仏国佐藤大使より	...	53
				右仏国政府回答	...	...	53
二	21	昭和10年3月15日	四九	在仏国外務大臣より	在仏国佐藤大使宛(電報)	麻薬製造制限条約の連盟脱退確定前に留保宣言通告する予定上仏国政府の意向至急確認方訓令	51
四	169	昭和10年3月13日	八七	在英國松平大使より	在英國松平大使宛(電報)	英國において反日的言説が台頭しつつある状況に鑑み北滿鐵道改築用資材の一部を英國に發注すべき旨意見具申	268
四	168	昭和10年3月13日	八三	在英國松平大使より	在英國松平大使宛(電報)	滿州事変につき英國政府は對連盟責務や對米協調に關し努力不足との労働党側非難や對米下院国防問題討議状況について	266
五	295	昭和10年3月12日	機密公 一三九	在米国外務大臣宛	在米国外務大臣宛	...	476
四	265	昭和10年3月12日	六〇	在ニューヨーク沢田總領事より	在ニューヨーク沢田總領事より	...	418
五	294	昭和10年3月11日	米二機密合 三八一	在米国外務大臣より	在米国外務大臣宛、在ニューヨーク沢田總領事、在シカゴ仲内領事代理他宛	...	473
五	293	昭和10年3月9日	五〇	在タイ矢田部公使より	在タイ矢田部公使宛(電報)	外部に洩らさない諒解の上タイ碎米輸入許可數量の開示につき訓令	473
五	346	昭和10年3月8日	三	在カナダ後藤臨時代理公使宛(電報)	在カナダ後藤臨時代理公使宛(電報)	...	583
五	292	昭和10年3月7日	七七	在タイ矢田部公使より	在タイ矢田部公使宛(電報)	タイ碎米輸入許可數量の開示につき請訓	472
六	409	昭和10年3月6日	普通本公 一七八	在ジュネーブ横山國際會議事務局長代 理兼總領事より	在ジュネーブ横山國際會議事務局長代 理兼總領事より	IOC創立者であるクーベルタン男爵の一九四〇年大会東京開催および我が國の歴史を各國に紹介するため協力する意向表明について	720

二	24	昭和10年3月22日	条一機密 四二	広田外務大臣より 岡田内閣総理大臣宛	麻薬製造制限条約の批准奏請	54
二	25	昭和10年3月23日	四六	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事宛(電報)	婦人児童委員会および阿片諮問委員会への日 本招請につき阿片部長との会談について	56
二	26	昭和10年3月23日	二九	広田外務大臣より 在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事宛(電報)	麻薬製造制限条約の留保宣言を二十五日付で 行うにつき連盟事務総長に申入れ準備方訓令	56
三	61	昭和10年3月23日	五九	在独国外務大臣宛(電報)	独国の政情および同国の連盟復帰問題につ き独国米国および伊国大使等からの聞込み について	109
三	62	昭和10年3月24日	九六	在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	独国再軍備宣言に対する英仏両国の対応振り 者からの情報についての	111
二	27	昭和10年3月25日	三〇	広田外務大臣より 在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事宛(電報)	麻薬条約に関する我が方留保宣言文を事務総 長に發送方訓令	57
三	63	昭和10年3月26日	一九	広田外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	独国の再軍備宣言の背景には欧州諸国の軍拡 傾向があるとの在本邦独国外務大臣への説 明について	112
四	217	昭和10年3月26日	六三	在独国外務大臣宛(電報) 在独国外務大臣宛(電報)	我が方外務大臣が議会において在本邦独国外 務大臣は南洋委任統治地域返還要求せずと 確言した旨公表したとの新聞報道につき照会	344
四	155	昭和10年3月27日	七七	在米国外務大臣より 在米国斎藤大使宛(電報)	米当局に対しアリゾナ排日法案不成立につ き謝意表明および在留邦人保護に尽力要請に ついて	246
五	347	昭和10年3月27日	八	在カナダ後藤臨時代理公使より 広田外務大臣宛(電報)	対カナダ貿易改善交渉開始につき同国外務次 官に申入れについて	584

六	397	昭和10年3月27日	一一二	在英國松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	オーストラリア副首相来日に対する答礼とし て出淵大使を派遣するにあたっては我が方政 府代表として派遣すべき旨意見具申	683
三	78	昭和10年3月28日	一一七	在英國松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	英國国璽尚書の訪ソは欧州の平和維持に関す る協議のためであり東洋の問題を論ずる趣旨 ではないとの英國大蔵次官の説明について	141
三	79	昭和10年3月28日	一〇三	在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	独国外務大臣の宣言および英国外相の独国外 務大臣の宣言は対ソ提携強化を迫られる見込 の結果、果ては対ソ提携強化を迫られる見込 の結果、果ては対ソ提携強化を迫られる見込 の結果、果ては対ソ提携強化を迫られる見込	142
四	218	昭和10年3月28日	二〇	在独国外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	南洋委任統治地域に関する在本邦独国外務大 使の宣言における発言を議会で報告した旨回 答	345
五	296	昭和10年3月28日	通一機密合 四八三	在米国外務大臣より 在米国斎藤大使、在サンフランシスコ 富井総領事、在ロサンゼルス堀領事他	訪伯使節米国の經由の際の応答方針および米 極東経済使節団応答方針送付について	481
二	28	昭和10年3月29日	三四八	在南京須磨総領事より 広田外務大臣宛(電報)	日本の連盟脱退に関するアブノル連盟事務総 長声明に対する胡中国代表の反駁について	57
三	64	昭和10年3月29日	機密公 六二	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛	対ソ情報蒐集強化の観点から好適地と思われ るエストニアに我が方公館を設置し予算上困 難な場合には、在ポーランド公使館管轄とすべ き旨意見具申	113
三	80	昭和10年3月29日	六七	在独国外務大臣宛(電報) 在独国外務大臣宛(電報)	英国外相および同国国璽尚書との会談におい てヒトラより独国外務大臣宛(電報)の希望等 の表明があった旨同国外相より内話について	143

四月

四	188	昭和10年4月19日	付記 四月一日発在仏国澄田大使館付武官より杉山参謀次長宛電報 英独代表会談の結果東欧ロカルノ構想の実現は更に困難となつたが仏ソ両国の提携は強化される可能性が高いとの見通しについて	北満鉄道問題、欧州政局および漁業問題等に 関する会談	289
三	86	昭和10年4月18日	在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	一三二	150
五	300	昭和10年4月15日	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛	公機密 二二二	490
四	220	昭和10年4月13日	在タイ矢田部公使宛(電報)	七二	348
二	31	昭和10年4月13日	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)	三五	59
五	299	昭和10年4月12日	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	一八九	489
五	298	昭和10年4月12日	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	一八七	486
三	85	昭和10年4月8日	在チェコスロバキア小川臨時代理公使より 広田外務大臣宛(電報)	五	149
四	187	昭和10年4月7日	在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	一三三	289
三	84	昭和10年4月6日	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	七	148
四	219	昭和10年4月5日	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	一〇六	345
二	30	昭和10年4月4日	在廣田外務大臣より 在中國有吉公使宛	亜一機密 六六	58
二	29	昭和10年4月4日	在南京須磨總領事より 広田外務大臣宛(電報)	三五四	57
五	297	昭和10年4月1日	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛	公機密 一八三	484
三	83	昭和10年4月1日	在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	一二二	147
三	82	昭和10年4月1日	在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	一二〇	146
三	81	昭和10年4月1日	在ソ連邦酒勾臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	一一九	145

四	266	昭和10年4月24日	一一二	広田外務大臣より 在米國齋藤大使宛（電報）	付記 四月六日付情報部第一課加瀬事務官稿 「岡田總理大臣ノ米國極東視察團々長「フォーブス」氏及「キヤロル」氏接見會談要領」	三 十二月付欧亜局第一課編 「第六十七議會ニ於ケル北鐵讓受協定成立ニ關スル廣田外務大臣ノ報告演說」	二 十二月付欧亜局第一課編 「昭和十年二月乃至三月ニ於ケル未解決問題ニ關スル西外務書記官「カズロフスキー」委員間折衝、北鐵讓受協定草案委員會ニヨル條文作成並協定署名」	付記一 十二月付欧亜局第一課編 「昭和九年十二月乃至昭和十年一月東郷外務省歐亞局長、「カズロフスキー」委員間交渉」	294
五	301	昭和10年4月24日	一一三	広田外務大臣より 在米國齋藤大使宛（電報）					492
五	302	昭和10年4月24日	公機密 二二〇	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛					493
三	87	昭和10年4月25日	一六五	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛（電報）					151
三	88	昭和10年4月27日	一七〇	在ソ連邦酒匂臨時代理大使より 広田外務大臣宛（電報）					152
四	221	昭和10年4月27日	八八	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛（電報）					351
五	348	昭和10年4月27日	八	広田外務大臣より 在カナダ後藤臨時代理公使宛（電報）					585
三	89	昭和10年4月30日	一三九	在仏國佐藤大使より 広田外務大臣宛（電報）					152
五月									
三	90	昭和10年5月1日	一四二	在仏國佐藤大使より 広田外務大臣宛（電報）					154
五	303	昭和10年5月2日	六五	広田外務大臣より 在ブラジル沢田大使宛（電報）					494
五	304	昭和10年5月2日	亜一機密 四三三	広田外務大臣より 在滿州國南大使宛					495
三	91	昭和10年5月3日	一四三	在仏國佐藤大使より 広田外務大臣宛（電報）					156
				別電一 五月三日発在仏國佐藤大使より 右条約要綱					156
				二 五月三日発在仏國佐藤大使より 右署名議定書要綱					157

四	二	三	四	三	五	四	三	五	三	五	四	五	五	四	四
267	32	94	173	93	350	172	92	349	65	307	223	306	305	222	171
昭和10年5月15日	昭和10年5月15日	昭和10年5月14日	昭和10年5月13日	昭和10年5月13日	昭和10年5月11日	昭和10年5月11日	昭和10年5月10日	昭和10年5月9日	昭和10年5月8日	昭和10年5月7日	昭和10年5月6日	昭和10年5月4日	昭和10年5月4日	昭和10年5月4日	昭和10年5月3日
一三五	收勞九四	一二	普通二二四	一〇	機密公 一〇八	一六七	八二	一一	一六四	一〇〇	七八	一〇二	一〇〇	一六一	九四
在中國若杉大使館參事官より	赤木社会局長官より 重光外務次官宛	在チエコスロバキア小川臨時代理公使 より 広田外務大臣宛(電報)	在英国松平大使より 広田外務大臣宛	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	在カナダ後藤臨時代理公使より 広田外務大臣宛	在英国松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在仏国佐藤大使宛(電報)	広田外務大臣より 在カナダ後藤臨時代理公使宛(電報)	在英国松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在独国武者小路大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在英国松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在英国松平大使宛(電報)
付記 五月二十五日付山縣宮内省式部職外事課長より日高外務大臣官房人事課長宛 公儀式部送第一〇三二号 右二十五周年にあたり我が方天皇および英国皇帝との間に御親電往復につい	付記 五月二十九日発在ポーランド山脇公使館付武官より杉山參謀次長宛電報 仏国外相のポーランド訪問により同国世論は鎮静化されたとの観測について 甚なる謝意表明について	付記 五月二十五日付山縣宮内省式部職外事課長より日高外務大臣官房人事課長宛 公儀式部送第一〇三二号 右二十五周年にあたり我が方天皇および英国皇帝との間に御親電往復につい	付記 五月二十九日発在ポーランド山脇公使館付武官より杉山參謀次長宛電報 仏国外相のポーランド訪問により同国世論は鎮静化されたとの観測について 甚なる謝意表明について	付記 五月二十五日付山縣宮内省式部職外事課長より日高外務大臣官房人事課長宛 公儀式部送第一〇三二号 右二十五周年にあたり我が方天皇および英国皇帝との間に御親電往復につい	付記 五月二十九日発在ポーランド山脇公使館付武官より杉山參謀次長宛電報 仏国外相のポーランド訪問により同国世論は鎮静化されたとの観測について 甚なる謝意表明について	付記 五月二十五日付山縣宮内省式部職外事課長より日高外務大臣官房人事課長宛 公儀式部送第一〇三二号 右二十五周年にあたり我が方天皇および英国皇帝との間に御親電往復につい	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」	付記一 五月七日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「大臣佛國大使會見録」 二 昭和十一年二月十三日付欧亜局第二課与謝野事務官稿 「廣田大臣佛國大使會談録」
422	60	166	272	271	166	165	586	270	159	159	585	115	499	353	498
日本および中国における視察の目的と調査の内容およびその印象につきフォーブス視察団の団長の談話	国際連盟脱退後の我が方の国際労働機関に対する分担金について	適用範囲を欧州に限定する等チエコスロバキア側の意向につき同国外相の内話について	我が方委任統治問題に関するヒトラー首相の発言はヴェルサイユ条約への一般的不満を表明したとの独国外相の説明について	ブラジルへの通商擁護法発動説に対する同国の反響について	独国再軍備宣言により欧州政局は不安な状態にあるが英国は独国の出方を見つつ対応する方針とのサイモン外相の談話について	対カナダ貿易改善問題につき我が方申入れに対する回答督促方訓令	在本邦仏国大使が大臣を訪れ仏ソ相互援助条約問題につき説明したのに対し当方より謝意表明について	対カナダ貿易改善問題につき我が方申入れに対する回答督促方訓令	獨国再軍備宣言により欧州政局は不安な状態にあるが英国は独国の出方を見つつ対応する方針とのサイモン外相の談話について	ブラジルへの通商擁護法発動説に対する同国の反響について	我が方委任統治問題に関するヒトラー首相の発言はヴェルサイユ条約への一般的不満を表明したとの独国外相の説明について	我が方ブラジル綿花購入に対するアメリカ側の反響について	我が方委任統治問題に関するヒトラー首相の発言はヴェルサイユ条約への一般的不満を表明したとの独国外相の説明について	ヒトラー首相が連盟脱退後の日本による委任統治継続に不満を漏らした旨の英国議會における同国外相の報告について	英国皇帝即位二十五周年式典開始にあたり同国政府に対し我が方祝意表明方訓令

四	四	五	五	四	四		五	五		四	二	五	二	三	二	三
174	192	310	309	191	190		352	351		189	35	308	34	66	33	95
昭和10年6月12日	昭和10年6月11日	昭和10年6月6日	昭和10年6月6日	昭和10年6月6日	昭和10年6月4日		昭和10年5月31日	昭和10年5月31日		昭和10年5月27日	昭和10年5月27日	昭和10年5月25日	昭和10年5月24日	昭和10年5月20日	昭和10年5月20日	昭和10年5月17日
一九七	機密七二九	普通八〇	二六四	一〇一四 公機密			二四	二三		九一	八〇	二四七	七七	一二	四〇	二〇一
在英國松平大使より 広田外務大臣宛(電報)	在上海石射総領事より 広田外務大臣宛	在オランダ武富公使より 広田外務大臣宛	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在滿州國南大使より 広田外務大臣宛	広田外務大臣 在本邦ユレネフソ連邦大使 会談		広田外務大臣より 在カナダ後藤臨時代理公使宛(電報)	広田外務大臣より 在カナダ後藤臨時代理公使宛(電報)		広田外務大臣より 在ソ連邦大田大使宛(電報)	別電 五月二十七日発在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 務大臣宛第八一号 右理事会における討議状況について	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	在オランダ武富公使より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)
付記 五月二十七日付 右覚書																
試掘権延長問題および国境侵犯問題等に関する会談	第七回コンメンタル大会開催の見込みに関する報道もあるが六月中の開催はほとんど不可能であるとの観測について	オランダにおける海運業救済策について	対フィリピン綿布輸出問題につき同国の経済状態を勘案して改訂するとの米国新提案への回答につき請訓	北満鉄道の渡代金一部の商品払い関係のソ連側調査が我が方重要資源生産に関する偵知にも及ぶ危険性につき関東軍より注意喚起について			対カナダを想定した我が方通商擁護のための小委員会答申案を通商審議委員会総会において満場一致可決について	在本邦カナダ公使提示の日加貿易問題に関する覚書要旨について		試掘期限を事実的に五年延長する北樺太石油会社新要求をソ連側外務当局に提示し交渉方訓令	中国による連盟理事席新設要求および本件の理事会における対議状況について	案に對し米國側は全面的に否認したため商務官を通じ先方に再考を要請について	獨國側は日ソ開戦を待つて策動を開始することを企んでいるとの仏國外相の推測に對し日ソ間の現状より開戦の見込みなしと反論について	各國によるハマーショルド推薦の動向につき同氏との会談について	別電 五月十七日発在ソ連邦大田大使より 右コミユニケ	仏國外相訪ソ中に公表されたコミユニケによるとと仏ソ相互援助条約締結後も兩國は東欧口カールノ構想の実現を希望について
274	314	501	500	310	308		596	595	594	307	66	65	499	65	64	167

三	五	五	四	五	五	四	五	五	五	五	二	四	四	五	五	四
67	358	357	225	315	314	193	356	355	354	313	312	36	268	224	353	175
昭和10年7月8日	昭和10年7月7日	昭和10年7月6日	昭和10年7月5日	昭和10年7月3日	昭和10年7月3日	昭和10年7月1日	昭和10年6月27日	昭和10年6月27日	昭和10年6月25日	昭和10年6月21日	昭和10年6月20日	昭和10年6月20日	昭和10年6月17日	昭和10年6月15日	昭和10年6月13日	昭和10年6月12日
機密二二五	五五	五二	七三	公機密 一二五	一六五	公機密 六二七	三七	三六	三五	公機密 三三七	二八九		四九〇	機密公 七六	一四九	一九九
在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	在アルゼンチン山崎公使より 広田外務大臣宛(電報)	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	在閩島永井総領事より 広田外務大臣宛	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛	在米国齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	社会局労働部労務課長より 阪本外務省条約局第三課長宛	在中国有吉大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ベルー村上公使より 広田外務大臣宛	広田外務大臣より 在米国齋藤大使宛(電報)	在英国松平大使より 広田外務大臣宛(電報)
		別電 七月六日発在カナダ加藤公使より 右回答文中、主要部分		付記 十二月五日平生団長の進講 「日伯貿易ニ就テ」												
英国国際連盟相のローマ訪問後における軍縮問題、伊土紛争問題、安全保障問題等に関する欧州諸国の動向について	カナダとの今後の交渉は同国の総選挙後に新政府と行うこととし当面の間通商擁護法発動を見合わせるべき旨意見具申	カナダ首相より七月六日付同国政府回答文受領について	パラグアイ国が人口増加政策のため移民に対し土地を無償または低廉価格で提供すると同国外相談話について	訪伯経済使節のブラジル到着以後における活動について	タイ米輸入制限に対するタイ側バーターによる輸入割当実施の意向について	極東での日本側によるソ連関係情報蒐集に対する防備を訴えたモロトフのウラジオストクにおける演説について	カナダ側日本側要望受入れ督促および通商擁護法発動が同国の選挙結果に及ぼす影響につき回報方訓令	対カナダ通商擁護法適用案骨子につき通報	通商局長より在本邦カナダ公使に対し通商擁護法発動もやむなしとする関税調査委員会の討議状況を伝達し同国側譲歩を要求について	帰国したエジプト遣英経済使節の起草した未発表報告書の我が方への影響等につき調査中について	米は受諾困難との米国務省見解について	対フィリピン綿布輸出問題に關し我が方が前年の実績に基づいて算出した五千六百万平方	昭和十一年度の日本の国際労働機関に対する分担金について	ペルーにおいて同国人八割雇用条例施行後も日本入への影響は少ないが法律改正に向けて同国政府への運動は継続中との報告について	対カナダ貿易改善問題につき我が方要求に対する同国回答が我が方見解と著しい懸隔があるため再度我が方が要望提出について	対フィリピン綿布輸出に關する米新提案に對しは関税問題の保障を前提に数量は前年実績に基づき交渉すべき旨訓令
117	606	605	354	519	508	315	603	603	602	506	505	67	424	353	598	274

五	三	三	三	五	五	五	五	三	三	四	四	三	六	五	四	四	五
363	103	102	101	362	361	360	317	100	99	194	178	68	398	316	177	176	359
昭和10年7月19日	昭和10年7月19日	昭和10年7月19日	昭和10年7月19日	昭和10年7月18日	昭和10年7月18日	昭和10年7月18日	昭和10年7月17日	昭和10年7月17日	昭和10年7月17日	昭和10年7月15日	昭和10年7月(15)日	昭和10年7月14日	昭和10年7月13日	昭和10年7月13日	昭和10年7月13日	昭和10年7月12日	昭和10年7月11日
五〇	八〇	三四	七九	六一	六〇	五九	通一機密合 二九八八	七八	三二	三三四	特情上海 五九	機密公 一三三二	欧一機密 一六二八	普通一〇二	二四〇	二三九	四三
広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在伊国杉村大使宛(電報)	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	重光外務次官より 津島大蔵次官「宛」 吉野商工次官「宛」	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在伊国杉村大使宛(電報)	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在中国有吉大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛	出淵大使宛 広田外務大臣より	在オランダ武富公使より 広田外務大臣宛	在英国藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在英国藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)
カナダ側の返答は遅れたのみならず我が方の望とは著しく懸隔があるため通商擁護法発令の延期は不可能な旨カナダ当局へ伝達方訓令	伊エ紛争に対する我が方対応については我が方はエチオピアに公使館を設置する旨報告	伊エ紛争に対する我が方対応は内外の関心を集めており新聞記者への対応につき一層注意を要する旨訓令	伊エ紛争に対する我が方具体的解決案にムッソリーニは不満を示すも慎重に妥協を図る意向との観測について	仏国提示の伊エ紛争具体的解決案にムッソリーニは不満を示すも慎重に妥協を図る意向との観測について	カナダ首相より為替補償税は日本のみに対して差別的に課すのではないなど弁明の上通商擁護法発動見合わせ方要望表明について	カナダ側譲歩に鑑み通商擁護法発動の見合わせにつき意見具申	ムッソリーニは不満を示すも慎重に妥協を図る意向との観測について	シリア向邦品待遇に関する日仏間交渉の経過概要送付について	カナダ首相よりの同国譲歩案提示および我が方通商擁護法発動の場合には我が方產品に付加税を課すとの意向表明について	カナダ首相より為替補償税は日本のみに対して差別的に課すのではないなど弁明の上通商擁護法発動見合わせ方要望表明について	カナダ側譲歩に鑑み通商擁護法発動の見合わせにつき意見具申	ムッソリーニは不満を示すも慎重に妥協を図る意向との観測について	シリア向邦品待遇に関する日仏間交渉の経過概要送付について	カナダ首相よりの同国譲歩案提示および我が方通商擁護法発動の場合には我が方產品に付加税を課すとの意向表明について	カナダ首相より為替補償税は日本のみに対して差別的に課すのではないなど弁明の上通商擁護法発動見合わせ方要望表明について	カナダ側譲歩に鑑み通商擁護法発動の見合わせにつき意見具申	ムッソリーニは不満を示すも慎重に妥協を図る意向との観測について
613	178	177	176	612	610	610	524	175	175	316	277	130	683	523	277	275	609

二	37	昭和10年7月26日	通一普通合 三〇八四	付記 八月二十六日付駐延委任統治委員会委員作成 「第二十七回委任統治委員会ニ於ケル通商均等待遇問題ニ關スル件」	70
五	369	昭和10年7月25日	七二	重光外務次官より 津島大蔵次官宛宛	69
五	368	昭和10年7月24日	公一八四	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛	623
五	367	昭和10年7月24日	七〇	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	622
五	318	昭和10年7月24日	通一機密 七七五	重光外務次官より 吉野商工次官宛	526
四	196	昭和10年7月24日	機密公 一九九	在ベトロパウロフスク尾形領事より 広田外務大臣宛	318
三	108	昭和10年7月24日	二五〇	在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	182
五	366	昭和10年7月23日	五三	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	621
三	107	昭和10年7月23日	八七	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	181

四	195	昭和10年7月22日	三四四	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	317
三	106	昭和10年7月22日	三九	広田外務大臣より 在伊国杉村大使宛(電報)	180
五	365	昭和10年7月20日	合五三三	在米國齋藤大使、在英國藤井臨時代理 大使、在シトニー村井総領事他宛 付記一 七月二十日付 勅令第二〇八号 二 七月二十日付 大蔵省告示第一六二号 三 七月二十日付 「通商擁護法發動ニ關スル當局談」	618
三	104	昭和10年7月20日	三五	在伊国杉村大使より 在伊国杉村大使宛(電報)	178
三	105	昭和10年7月20日	八一	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	180
五	364	昭和10年7月19日	六二	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	614
五	365	昭和10年7月20日	合五三三	在米國齋藤大使、在英國藤井臨時代理 大使、在シトニー村井総領事他宛 付記一 七月二十日付 勅令第二〇八号 二 七月二十日付 大蔵省告示第一六二号 三 七月二十日付 「通商擁護法發動ニ關スル當局談」	614
三	104	昭和10年7月20日	三五	在伊国杉村大使より 在伊国杉村大使宛(電報)	178
三	105	昭和10年7月20日	八一	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	180
五	364	昭和10年7月19日	六二	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	614

三	112	昭和10年8月7日	郵二	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	伊エ紛争を機に対日牽制を目論むリトヴィノフの活動および経済的に伊国を圧迫せんとする英国の動向等につき在伊国独国大使より聞き込みについて	183
三	111	昭和10年8月6日	四四	広田外務大臣より 在伊国杉村大使宛(電報)	イエ紛争に關連して米国政府の中立方針について米大統領の説明振り	247
二	38	昭和10年8月6日	普通二一九	在ベルギー有田大使より 広田外務大臣宛	カナダ側の公定相場引下げにより通商擁護法発動を撤回するのは不可につき実際的解決のための商議開催を受諾するよう先方に督促方訓令	626
六	399	昭和10年8月3日	二〇	在ダバオ金子領事代理より 広田外務大臣宛(電報)	北樺太石油会社新要求につきこれ以上の延長の詮議は困難と認めるが関係官庁と協議すると の外務人民委員代理の回答について	319
五	321	昭和10年8月2日	七六	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛(電報)	日ソが開戦に至らない原因は日本における共產主義活動家の活動およびソ連の平和政策にあるとのコミンテルン大会における日本代表演説について	320
五	320	昭和10年8月1日	七四	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛(電報)	日本綿布輸入量制限に関するエジプト大蔵大臣の内話について	529
四	226	昭和10年8月1日	四九	在オランダ武富公使より 広田外務大臣宛(電報)	連盟理事会開催を控え伊エ紛争に対する英仏等主要国の対応につき観測	184
三	110	昭和10年8月1日	一一〇	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	日蘭仲裁裁判条約に関し調停委員もほぼ確定し批准書交換も近く行われる見込みにつき議長の人選等開始したい旨意見呈申	355
五	319	昭和10年7月31日	七二	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛(電報)		
四	198	昭和10年7月31日	三六二	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)		
四	197	昭和10年7月30日	三六〇	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)		
五	370	昭和10年7月27日	五五	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)		
四	156	昭和10年7月27日	三三八	在米国齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)		
三	109	昭和10年7月27日	九二	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)		
五	320	昭和10年8月1日	七四	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛(電報)	エジプト側による日本綿布輸入制限に対し前年度の我が方実績に基づく二対案につき意見具申	529
五	321	昭和10年8月2日	七六	在アレキサンドリア天城総領事より 広田外務大臣宛(電報)	エジプト側による日本綿布輸入制限への対案として提示した二案の折衷案について	530
六	399	昭和10年8月3日	二〇	在ダバオ金子領事代理より 広田外務大臣宛(電報)	出淵大使のマニラ滞在中度々ケソンと会見し独立に向けてのファイリビンの状況を聴取するとともに良好関係構築に向けての我が方希望表明について	688
二	38	昭和10年8月6日	普通二一九	在ベルギー有田大使より 広田外務大臣宛	第三十一回万国議院同盟会議における討議について	71
三	111	昭和10年8月6日	四四	広田外務大臣より 在伊国杉村大使宛(電報)	我が方は伊エ紛争両当時国と友好関係にあるため片方のみを援助することは困難な事情を在伊国エチオピア公使に説明方訓令	186
三	112	昭和10年8月7日	郵二	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	在伊国エチオピア公使より同国のおかれた苦況につき説明の上我が方からの援助に関する正式声明方懇願について	186

[illegible]

五	三	二	四	二	三	六	二	二	四	三	二	四	五	四	四	
328	118	45	233	44	96	401	43	42	207	117	41	206	377	205	204	
昭和10年9月20日	昭和10年9月20日	昭和10年9月19日	昭和10年9月18日	昭和10年9月18日	昭和10年9月17日	昭和10年9月15日	昭和10年9月14日	昭和10年9月14日	昭和10年9月13日	昭和10年9月13日	昭和10年9月13日	昭和10年9月10日	昭和10年9月9日	昭和10年9月9日	昭和10年9月7日	
三九八	一一六	一六三	二〇一	一六〇	二九	七四	一五一	一五〇	四五四	一一三	一四三	一九二	六五	四四四	一八七	
在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ブラジル沢田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ラトビア佐久間臨時代理公使より 広田外務大臣宛(電報)	在シドニー村井総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在カナダ加藤公使宛(電報)	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	
対フィリピン綿布輸出問題につき我が方訓令 に基づき國務省担当者と協議の上作成の文案 につき請訓	伊国・エチオピア開戦の危険性および連盟に よる対伊制裁の可能性などにつき在伊国英國 大使より聞込みについて	中国の理事新設要求に係る理事増員問題の理 事会審議状況について	サンパウロ州の労働力不足問題は日本人移民 に触れずに解決を図るとの情報について	連盟総会第六委員会においてノルウェー代表 が脱退後の日本商品のC式委任統治地域にお ける均等待遇および南洋群島港湾修築問題に 言及について	出淵大使のオーストラリア滞在中に通商条約 締結問題および無線連絡問題につき首相等同 要人達より意見聴取について	ルーマニアの対ソ相互援助条約締結に同国外 相は積極的だが皇帝軍部等の反対があるの で困難との在ラトビアルーマニア公使の内話 について	長岡当選に際しての投票内分けについて	理事会および総会が安達の後任として長岡を 選出について	タス通信の誤報は誤解および行き違いの結果 と判明しソ連外務部も隠便な解決を希望する ため同社通信員には従来どおりの待遇付与に つき意見具申	伊英紛争に対する我が方対処方針につき在伊 國英國および米國大使より照会について	中国の新理事席要求問題の進捗状況について	通商問題に関する我が方要求を不当とし通商 擁護法発動を非難するカナダ政府声明に対し 外務当局談発表について	コミンテルン大会問題等をめぐる会談につき ソ連外務部よりコミニケ発表の事実なしと の調査結果について	コミンテルン大会問題への我が方対処振りお よび外務人民委員代理發言の問題点を踏まえ ソ連側による捏造につき同代理に注意喚起方 訓令	別電 九月六日発在カナダ加藤公使より広田外務大臣宛第九四号 右ステートメント	
549	195	79	372	78	169	693	77	77	335	195	194	76	636	333	332	634

三	五	三	三	六	五	五	三	五	二	五	四	四	五	三	二
123	334	122	121	410	333	332	120	331	47	330	161	160	329	119	46
昭和10年10月7日	昭和10年10月5日	昭和10年10月4日	昭和10年10月2日	昭和10年10月1日	昭和10年9月30日	昭和10年9月28日	昭和10年9月28日	昭和10年9月26日	昭和10年9月26日	昭和10年9月24日	昭和10年9月24日	昭和10年9月23日	昭和10年9月22日	昭和10年9月21日	昭和10年9月21日
二〇三	二三一	九〇	一三〇	五七	四二五	二二二	一二五	四〇七	一八三	四〇四	普通公 五一三	四〇三	二二六	一六九	条三機密 一六八
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在米國齋藤大使宛(電報)	広田外務大臣より 在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)	在伊國杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在伊國杉村大使宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在米國齋藤大使宛(電報)	在伊國杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在米國齋藤大使宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在米國齋藤大使より 条三機密 一六八
伊國・エチオピア間の戦闘開始にあたり伊國に對し連盟規約第十六条の適用を認めたり伊國委員會報告を連盟ポランド代表より内示についで	對フィリピン綿布輸出問題につき協定の円満運行に對する米國側努力を要請の上受諾すべき旨訓令	伊エ紛争に對し連盟が規約第十六条適用時の対応に關する外國記者の質問に我が方独自の対応する旨回答についで	伊國の對日態度緩和の背景には日伊間に默契ありとの在伊國獨逸大使の推測につき打ち消しについで	一九四〇年オリンピック大会東京開催につき副島伯爵よりムッソリーニ首相に書翰送付に對しオリビック關係の約束は守る旨の返答傳達についで	對フィリピン綿布輸出問題に關し米國側は我が方案をほぼ了承したので有効期間起算日を我先方主張の八月一日に改めることにつき請訓	對フィリピン綿布輸出問題については我が方輸出量を四千五百万平米まで妥協を認めるにつき緊急妥結方訓令	伊エ紛争にあたりムッソリーニ周辺および連盟關係諸國の動向等につき在伊國各國大公使連より聞込みについで	對フィリピン綿布輸出問題につき協定の期間、有効期間の起算点および在華紡問題に關し米國國務次官補より照會についで	中國の新理事席要求問題は新設の理事会改造問題委員會に回付され本總會中の解決は困難な状況についで	對フィリピン綿布輸出問題に關する我が方讓歩案を米國國務次官補に示すも先方は難色を示し我が方外務大臣の裁量を仰ぎたいとの意向についで	日米間の通商問題は互讓の精神をもつて對すべしとする在本邦米國大使談話についで	中立法による軍需品製造および輸出入業者登録制度実施のため國務省内に武器および軍需品監督部設置についで	對フィリピン綿布輸出問題に關する國務省および我が方大使館作成新案につき輸出量の上限を前年の兩國実績の平均とすべき旨訓令	エチオピア問題に關する伊國側の根本的主張を説明の上日本側理解を求める同國連盟代表の堀田局長への内話についで	昭和十一年度我が方の國際労働機關に對する分担金につき再調査方訓令
202	557	201	201	722	555	554	198	553	81	552	255	254	551	197	79

別電 九月二十日発在米國齋藤大使より広田外務大臣宛第四〇〇号
右文案
550

四	235	昭和10年10月16日	一五三	広田外務大臣より 在タイ矢田部公使宛(電報)	付記一 作成日不明、作成者不明 暹羅ヲ中心トスル經濟使節ニ關スル第一回打合會概要」	375
四	234	昭和10年10月15日	普通四〇〇	在独国井上臨時代理大使より 広田外務大臣宛	訪独した我が方代議士等に対し国粋社会党幹部より我が国に対する好意表明について	373
三	128	昭和10年10月15日	三三五	在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	対伊制裁に關する連盟からの参加要請に以前に我が方より兩当事国への武器輸出禁止を宣明すべき旨意見具申	208
三	127	昭和10年10月15日	二六	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	連盟による対伊制裁へのソ連の対応振り等につき在ポーランド米国外務大臣の内話について	207
四	269	昭和10年10月14日	機密三一四	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛	全米貿易評議會が國務省に慫慂方依頼した中国の対米答礼使節派遣について中国側より見合わせ方申越しについて	425
三	126	昭和10年10月14日	二二三	在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	伊エ紛争に關する連盟の対伊制裁につき我が方は連盟とは別の見地から兩当事国に対し武器輸出禁止を宣明すべき旨意見具申	206
五	378	昭和10年10月12日	機密公 二六八	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛	カナダ外相書翰および声明に対し我が方が反駁した回答公文送付について	638
				付記 十月十一日付 右覚書		567
				別電 十月十一日発在米國齋藤大使より 米國側作成本件公表案		566
五	339	昭和10年10月11日	四三七	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	對フィリピン綿布輸出問題に關する我が方修正要求米國側承認につき同覚書に署名について	565
五	338	昭和10年10月11日	二三五	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	對フィリピン綿布輸出問題に關する米國側覚書案に若干の修正を加え署名実施方訓令	564
三	125	昭和10年10月11日	合七五三	在米國齋藤大使より 在米國齋藤大使宛(電報)	連盟の對伊制裁の我が方への影響を研究する素材とするため各國の制裁への参加振りおよび各國經濟への影響等につき調査方訓令	205
五	337	昭和10年10月9日	四三四	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	對フィリピン綿布輸出に關する協定は同一の覚書二通作成しそれぞれに双方が署名すべきとの米國國務次官補案について	562
五	336	昭和10年10月8日	通一機密 一六三	在米國齋藤大使より 在米國齋藤大使宛	シリアにおける邦品待遇に關する在米の輸出組合の業務区域を拡張するなどの商工省意見を參酌の上交渉方訓令	560
				別電一 十月八日発在米國齋藤大使より 右日本側書付案		559
				二 十月八日発在米國齋藤大使より 右米國側書付案		560
五	335	昭和10年10月8日	四二九	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	對フィリピン綿布輸出に關する協定は内容を記載した書付に署名の上交換するとの意見について	557
三	124	昭和10年10月7日	一三八	在伊國杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	伊國、英國、仏國、連盟等の伊エ紛争に關する動向につき各方面からの内報について	204

五	五	六	五	三	三	三	三	三
381	380	402	379	139	138	137	136	135
昭和10年10月31日	昭和10年10月31日	昭和10年10月27日	昭和10年10月27日	昭和10年10月26日	昭和10年10月26日	昭和10年10月26日	昭和10年10月26日	昭和10年10月24日
一一〇	八二		一一七	一〇四	三三九	四五四	一四八	三三五
在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	出淵大使より 重光外務次官宛(電報)	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事宛(電報)	在英国藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在伊國杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	在英国藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)
我が方提案への回答督促に対しカナダ新首相は前向きに検討する旨確約の上休戦記念日までに本件を解決することを提案について	カナダ新首相の付加税相互休止案は受入れ困難であるが早期解決のため我が方提案に対する意向につき回答督促方訓令	南方諸國の訪問を終え帰国について	日本カナダ間通商問題解決のため二カ月間双方付加税を休止しその間に交渉を進めるとカナダ新首相の提案について	連盟による対伊制裁につき非連盟國である我が方意見を表すべき時期にはあらずと思考されるので議長通告は黙過する方針について	伊エ紛争の急速な解決を望むという原則を貫き対伊制裁実現後も抜駆的に我が方のみ経済的利益を追求することは慎むべき意見具申	米國が対伊制裁参加の場合にも同國經濟および通商への重大な影響は認められないので我が方対米貿易にも大きな影響なしとの観測について	対伊制裁への対応振りおよび同制裁の諸國への影響につき諸方面より聞込みについて	英国下院における伊エ紛争問題討議に際し同紛争と満州事變の性格上の相違を明らかにした同國國際連盟相の発言について
650	649	694	648	223	222	219	217	216

三	三	三	三	三	四	三
134	133	132	131	130	236	129
昭和10年10月24日	昭和10年10月24日	昭和10年10月24日	昭和10年10月23日	昭和10年10月23日	昭和10年10月22日	昭和10年10月19日
五八	三四二	一二九	三四	二六一	二四〇	一八〇
在ベルギー有田大使より 広田外務大臣宛(電報)	在仏國佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	在獨國井上臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	在スウェーデン白鳥公使より 広田外務大臣宛(電報)	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	広田外務大臣より 在仏國佐藤大使宛(電報)
連盟による対伊制裁への不参加の結果我が方邦品排撃の口実を与える危険性がある旨につき通報	対伊制裁参加國は不参加國が漁夫の利を占めることを警戒中であるので我が方は各國において邦品排撃が起ころぬよう注意すべき旨意見具申	非連盟國である獨國は連盟による対伊制裁に参加する可能性は低く火事場泥棒的に對伊貿易を拡大する危険性も認められないとの観測について	伊エ紛争の我が方への影響は少なく伊國の行動による不利益は認められないと観測されるため連盟による制裁には参加すべきでない旨意見具申	對伊制裁問題への我が方対応が注目を集めている現状に鑑み武器・軍需品の對紛争當事國輸出自肅につき独自の態度を宣明すべき旨意見具申	タイの政治情勢に鑑み經濟使節團派遣の時期が遅れても可なる旨の見解報告	連盟もしくは英國からの申入れ以前に對伊制裁への我が方態度を宣明する必要は認められない旨回答
215	213	212	210	209	378	209

二 作成日不明、作成者不明
「暹羅ヲ中心トスル經濟使節ニ關スル第二回打合會概要」

五	386	昭和10年11月22日	九六	別電 十一月二十二日発 為替相場に関する交渉の基礎とすべき数字について	662
五	340	昭和10年11月20日	普通二六九	在カナダ加藤公使宛(電報)	661
三	141	昭和10年11月20日	二九四	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	226
三	140	昭和10年11月19日	一五九	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	224
二	48	昭和10年11月18日	機密本公 八〇〇	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛	82
四	209	昭和10年11月15日	五七二	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	337
四	163	昭和10年11月15日	機密三五七	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛	261
五	385	昭和10年11月13日	一二九	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	658
				別電 十一月十三日発 在カナダ加藤公使より 右カナダ政府覚書	659

五	384	昭和10年11月12日	一二七	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	657
四	270	昭和10年11月12日	二〇四	在ニューヨーク沢田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	427
四	208	昭和10年11月12日	五六六	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	337
四	237	昭和10年11月11日	九一	在アフガニスタン北田公使より 広田外務大臣宛(電報)	379
三	69	昭和10年11月9日	三二	別電 十一月九日発 右会見において 独仏関係が良好化しつつあるとの同大使の観測表明について	133
四	162	昭和10年11月8日	普通公 六〇〇	在米國齋藤大使より 広田外務大臣宛	256
五	383	昭和10年11月7日	一二一	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	651
五	382	昭和10年11月4日	八三	別電 十一月六日発 在カナダ加藤公使より 右カナダ政府回答文	653
				休戦記念日を期しての解決は我が方国内手続 き上困難につき同記念日に共同声明を発する 案を提示方訓令	650

十一月

四	238	昭和10年11月25日	二六八	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	日タイ調停委員会の構成につき我が方が方の譲歩 ない限り仲裁裁判条約締結困難の旨意見具申 ………380
二	49	昭和10年11月26日	機密本公 八二三	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛	我が方委任統治年報に対する第二十八回委任 統治委員会のオブザーヴェーション要旨 ………83
二	50	昭和10年11月26日	二九八	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	委任統治部が連盟脱退確定後の日本の委任統 治に関する問題につき事務総長に指令を仰ぎ つつあるとの情報 ………87
四	271	昭和10年11月27日	一一〇	広田外務大臣より 在ニューヨーク沢田総領事宛(電報)	日本からの答礼視察団は将来的な懸案として 持ち越したいとの回答について ………428
二	51	昭和10年11月28日	三〇三	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	連盟脱退後の我が方委任統治に関する連盟事 務総長の指令について ………88
五	341	昭和10年11月28日		広田外務大臣より 在仏国佐藤大使宛(電報)	シリアにおける邦品待遇に関する交渉促進を 仏国側に申入れ方訓令 ………578
五	342	昭和10年11月29日	二七〇	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	タイ米の輸入許可継続につき意見具申 ………578
四	239	昭和10年11月30日	一七七	広田外務大臣より 在タイ矢田部公使宛(電報)	日タイ仲裁裁判条約につき調停委員会の構成 を紛争発生時に決定する案で交渉方訓令 ………381
十二月					
三	70	昭和10年12月2日	六〇五	在ソ連邦大田大使より 広田外務大臣宛(電報)	英ソ接近を促す様々な運動が報じられるなか 近くロンドンにおいて英ソ平和親善会議の大 会開催との情報もあるので調査方要請 ………134
五	343	昭和10年12月3日	一七九	広田外務大臣より 在タイ矢田部公使宛(電報)	来年のタイ米輸入許可数量を本年程度とする 旨通報 ………579

三	71	昭和10年12月4日	三九四	在英國藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	英ソ平和親善会議の大会が開催される予定だ が注目には値しない見込みであり対ソ借款の 計画進行中との風説も実現は困難との観測に ついて ………135
三	142	昭和10年12月4日	二〇九	広田外務大臣より 在仏国佐藤大使宛(電報)	在エチオピア国公使就任予定の鈴木書記官に 対伊制裁および来日したエチオピア特使から の各種要請への我が方対応振り通報 ………228
四	179	昭和10年12月6日	三九七	在英國藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	中国幣制改革問題および華北自治問題等我が 方とも関係が深い中国問題にも言及した英国 議會における討議について ………278
五	344	昭和10年12月7日		在仏国佐藤大使より 広田外務大臣宛(電報)	シリアにおける邦品待遇に関する交渉促進を 仏国外務次官などに申入れについて ………580
三	72	昭和10年12月10日	三八	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	ソ連が対英接近を試みつつあるとの風説に対 し我が方との情報交換を密にしたいとのポー ランド外相の希望表明について ………136
三	73	昭和10年12月11日	普通五一九	在英國藤井臨時代理大使より 広田外務大臣宛	英ソ平和親善會議の大会において対ソ関係改 善が重視され具体策として対ソ投資の安全と 必要が提唱されたとの英国紙報道振りについ て ………136
三	143	昭和10年12月14日	三一九	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代 理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	英仏新提案につき英国側の大幅譲歩の背景に 関する連盟事務局等からの情報および同新提 案に対する各国の対応振りについて ………229
五	387	昭和10年12月14日	一四七	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	カナダ首相より同級同種除外品目明示困難な 旨および交換公文の基礎とすべき要領書手交 について ………662

別電 十二月十四日発在カナダ加藤公使より広田外務大臣宛第一四八号
右要領書

………664

五	395	昭和10年12月26日	一五五	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	交換公文は二十六日付とし二十七日交換との決定について	674
五	394	昭和10年12月26日	一一五	広田外務大臣より 在カナダ加藤公使宛(電報)	二十六日の関税調査委員会において本件勅令等の廃止が決定し二十八日官報掲載予定であるので交換公文の日付を二十六日等に変更希望について	673
五	345	昭和10年12月21日	三三五	在バタビア越田総領事より 広田外務大臣宛(電報)	オランダ政府による蘭印各船会社に対する補助金下付に関する調査結果報告	581
二	52	昭和10年12月21日	三三二	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	次回連盟理事会における日本委任統治年報審査報告審議への日本代表の出席につき問合せについて	89
四	241	昭和10年12月20日	二九〇	在タイ矢田部公使より 広田外務大臣宛(電報)	日タイ仲裁裁判条約に関し外交顧問に調停委員会議歩案を提示したが日蘭条約と同等を主張につき交渉延期について	385
三	76	昭和10年12月20日	三三〇	在ジュネーブ横山国際会議事務局長代理兼総領事より 広田外務大臣宛(電報)	英国側より仏国側に対し仏ソ相互援助条約批准促進方勧告があつたとの在スイスソ連大使の吹聴につき在国ポーランド公使からの情報について	139
三	75	昭和10年12月20日	一六一	在独国井上臨時代理大使より 広田外務大臣宛(電報)	独国は内政諸問題の解決および再軍備宣言後の国防上安全確立を急務としてゐるとのリップントロップ側近者の内報について	139
五	393	昭和10年12月19日	一五二	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	公文交換はオタワ時間の二十八日付で双方同意とし明年一月一日実施とのカナダ首相の意向について	672
四	240	昭和10年12月19日	重一機密 二九一三	重光外務次官より 郷日本経済連盟会会長宛 付記 十二月十九日桑島東亜局長と在本邦タイ公使との対談要領	タイ国内務参議の視察目的に鑑み便宜供与方依頼	383 382
五	392	昭和10年12月18日	一〇九	別電 十二月十八日発広田外務大臣より在カナダ加藤公使宛(電報) 我が方受諾案	交換公文案に関しカナダ側提案に対する我が方受諾条件について	671
五	391	昭和10年12月18日	一〇八	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	公定価格の性質上公定価額撤廃品目一覧の交換公文記載についてカナダ側に再考を促すべき旨訓令	670
五	390	昭和10年12月17日	一五一	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	交換公文中への公定価額廃止品目記載は対米関係上避けたいとのカナダ首相の意向について	670
三	74	昭和10年12月17日	四〇	在ポーランド伊藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	ロンドン海軍会議にあたり同会議研究のためソ連が在英大使館に海軍武官を任命したのは英国側の勧めであり英ソ接近の一証左との情報について	138
五	389	昭和10年12月16日	一五〇	在カナダ加藤公使より 広田外務大臣宛(電報)	為替率に関し連盟年鑑を基礎とする案に対しカナダ首相反対について	669
五	388	昭和10年12月16日	一〇七	在カナダ加藤公使より 在カナダ加藤公使宛(電報)	同級同種除外品目明示には固執しないが為替率については二案中我が方に有利な案をカナダ側に提示し交換公文は我が方で起案希望について	667
三	144	昭和10年12月16日	一七九	在伊国杉村大使より 広田外務大臣宛(電報)	英仏新提案において英仏伊三国の協力が重視された背景には英国側の中国における優位を我が方に奪われることへの危惧があるとの観測について	231

